

## 69. The Fields of Athenry

この歌はアイルランドのフォーク・バラッドです。1840年代に当地を襲った\*大飢饉のさなか、一人の男がイギリスの大地主、トレヴェリアンの畑からトウモロコシを盗んだ為、監獄に入れられ、やがてオーストラリアの流刑地、ボタニーベイに移送される、という内容です。若者たちを飢えから救おうとしてやったことなのに、残された妻の、二度と会うことのない「愛する人」への気持ちが伝わってくる切なくも美しいメロディーです。

①By a lonely prison wall, I heard a young girl calling  
"Michael, they have taken you away,  
For you stole Trevelyan's corn,  
So the young might see the morn.  
Now a prison ship lies waiting in the bay."

人里離れた監獄の塀の傍らで、  
若い女が俺を呼んでいるのを聞いた。“マイケル、  
あいつらが、あんたを奪って行った、地主の畑の  
トウモロコシを盗んだからだって、それで若者たちが、  
朝を迎えられるようにとやったのに。いま、入江には  
囚人船が停泊しているわ。”

(Chorus)

Low lie the fields of Athenry  
Where once we watched the small free birds fly  
Our love was on the wing  
We had dreams and songs to sing  
It's so lonely round the fields of Athenry.

アセンライの牧草地は低いところにある。  
昔そこで俺たちは自由に飛び交う小鳥たちを眺めたものだ。  
二人の愛は小鳥のように飛んでいた。  
夢もあったし、歌もうたった。  
アセンライの牧草地の辺りはすっかり寂しくなってしまった。

②By a lonely prison wall, I heard a young man calling  
"Nothing matters, Mary, when you're free  
Against the famine and the crown,  
I rebelled, they cut me down.  
Now you must raise our child with dignity."

人里離れた監獄の塀の傍らで、若い男が私を呼んでいる  
のを聞いた。“何も問題ないさ、メアリー、君が自由の  
身であれば。わたしは、飢餓にも国王にも反抗した。  
彼らは私を倒したのだ。  
さあ、君は威厳をもって俺たちの子を育てるのだ。”

③By a lonely harbor wall, she watched the last star fall  
As the prison ship sailed out against the sky  
For she lived to hope and pray for her love in Botany Bay  
It's so lonely round the fields of Athenry.

人気のない岸壁の傍らで、彼女は最後の流れ星を見た。  
その時彼の乗った囚人船が夜空を背景に出航した。  
彼女は希望を持って行き、ボタニーベイの愛する人  
のために祈った。アセンライの牧草地の辺りはすっかり  
寂しくなってしまった。

\*ジャガイモ飢饉 (1845~1849) : アイルランドで主要食物のジャガイモが疫病により枯死したことで起こった食糧難及びそれによってもたらされた一連の被害を指す。

訳：宮崎多加雄